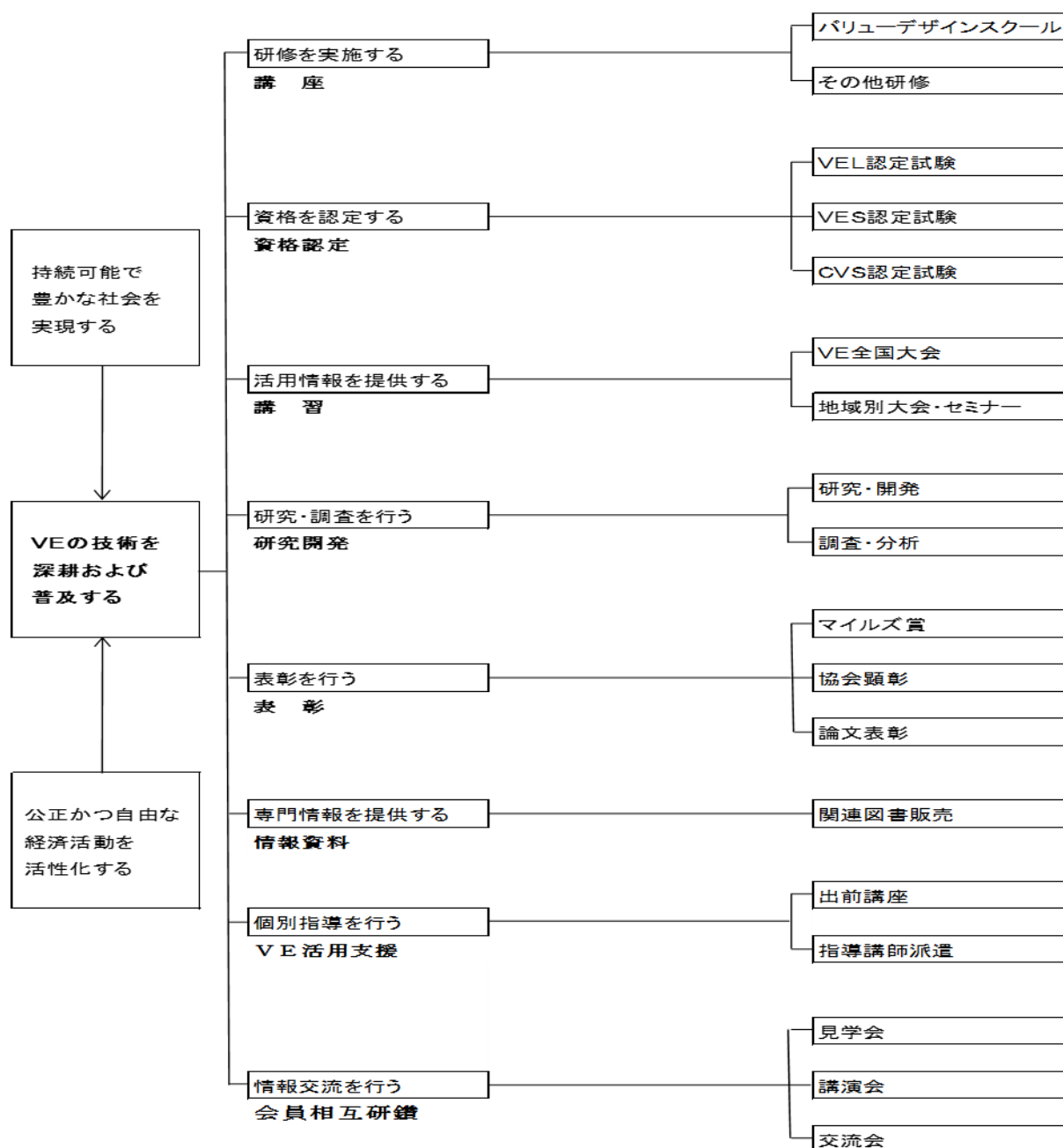


公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

2021年度 事業計画書

(2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで)

2021年度も引き続き、(1) 持続可能で豊かな社会の実現、(2) 公正かつ自由な経済活動の活性化、(3) VE技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



1. 講座

ここでは、次世代のVEリーダー育成を目的に、基礎知識の講義と活用手順の演習をあらゆる業種・職種の人や学生を対象に行うVE初級コースや、実務での活用・実践力を備えたVE専門家の育成を目的に、開発設計VE等の講義・演習をVEリーダー（VEL）有資格者又はVE初級コースと同等の内容を学んだ人を対象に行うVE中級コース等がある「バリューデザインスクール」、VEの実践を担える人材の育成を目的に、VEの概要をまず知りたいという人やVEの導入・実践を考えている人に対してその人達が職場で実際に抱えている問題や課題でVEのワークショップを行う「VE塾」等を開催する。

※ 以下講座の講師は、CVS（Certified Value Specialist）及びVEスペシャリスト（VES）の有資格者に委嘱することを原則とする。

1) バリューデザインスクールの開催

(1) VE初級コース

VEの予備知識がない誰もが基礎から学べる講座として、次の4講座を2回ずつ開催する。

講座名	開催日	開催方法
3時間で学ぶVEの基本	5月18日	オンライン
	9月7日	
1日で体験するVEワークショップ	5月25日	
	9月14日	
VEリーダー受験対策1日セミナー	8月20日	
	11月9日	
製品改善ワークショップ	7月5日～6日	
	12月16日～17日	

※ 全講座、VEL認定試験の受験資格要件の対象とする。

(2) VE中級コース

VE初級コース修了者又はVEL有資格者、VES有資格者を主な対象に、次の9講座を開催する。

講座名	開催日	開催方法
実行力を高める調達・購買	6月4日	オンライン
企画段階のVE	6月18日	
機能の整理法	6月30日	
開発設計のVE	7月15日～16日	
ソフトVEの進め方	8月24日～25日	
VEで活用するアイデア発想	9月3日	
VEブラッシュアップ（基本編）	9月30日	
VEブラッシュアップ（短文記述編）	10月14日	

※ 全講座、VES認定試験の受験資格要件（学習経歴）の対象とする。

(3) VE上級コース

米国VE協会のバリュー・メソドロジー・ファンダメンタルズ（以下「VMF」という。）2に相当し、CVS認定試験の受験要件を満たせるものとして、次の4講座を開催する。

講座名	開催日	開催方法
VEチームを価値創造集団へと導くファシリテーション力	(未定)	オンライン
経営者を納得させるVE提案書の書き方	7月14日	
VEの原点的思考（機能分析中心）	7月20日	
VEを組織的に適用するためのマネジメント	8月23日	

(4) ファシリテーション特別講座（仮称）

CVSの受験資格要件を満たすため、VMF1及び2とは別に受講が必要な講座として、3日間のを次の通り開催する。

	開催日	開催方法
1日目	8月25日	オンライン
2日目	8月31日	会場集合
3日目	9月7日	オンライン

(5) DC (Design & Cost) コース

VES及びCVS更新要件上のポイントとなるものとして次の6講座のほか、必要に応じて随時開催する。

講座名	開催日	開催方法
コストテーブル作成・活用の体験	10月26日	オンライン
開発設計業務でのコストエンジニアリング	11月10日	
企画、構想段階の機能と品質の決め方	11月25日	
DFA (Design For Assembly) 体験	12月7日	
企画から生産までの原価企画実務上の留意点	1月26日	
UD (ユニバーサルデザイン) の体験	2月15日	

(6) 経営者フォーラム

経営者層にVE及びその関連領域の情報を提供し、自組織でのVE活用を促進してもらえようとするため、企業の経営者及び経営幹部や学識経験者、コンサルタント等の講演を主な内容とする講演会を、VES及びCVS更新要件上のポイントとなるものとして理事会と同じ日に3回開催する。

2) その他研修会等の開催

(1) 通信講座の開講

① VEの基礎

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、VEの基礎を学び、VEL資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

② はじめての企画・開発メソッド ～ 0 Look / 1st Look VE ～

VEの基礎を学んだ人、VEL有資格者等を対象に、企画・開発業務にVEを活用する方法を学ぶ講座を開講する。修了者には、バリュー・デザイナー3級の修了認定証を発行する。

③ VEとTRIZ（仮称）

VEとTRIZ等、VE関連講座を開設する。

(2) 西日本支部（中四国地区）でのVE塾の開講

VE塾という名称のVEワークショップ・セミナーを広島地区で開講し、その成果を発表会で公表する。

(3) 西日本支部（東海地区）でのVE技術情報交流会の開催

VEやVE関連技法、話題の改善技法等をテーマに演習（ワークショップ）とディスカッションを行い、参加企業での導入・展開を支援する。

(4) CVSによるVE技術者育成支援

日本国内のCVS有資格者で構成されている「CVSフォーラム」において、VE技術者の育成を支援するための活動やVEに関する実務的研究及び調査・分析を行う。

(5) 公共機関でのVE技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国VE活動推進研究会」を支援すること等で、公共機関でのVE技術者育成を支援する。

(6) 教育機関におけるVE導入促進と普及

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科の実習プログラムである、“理論と実践の習得”を目指し、インターンシップを発展させた「プラクティカム」における、主に中国企業での管理技術を活用した課題解決をテーマとした実践的研究に、提携関係のある上海VE協会と協力し、取り組む。

※ 上記のほか、様々な講座を必要に応じて適宜開催する。

2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でVE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「VEL」資格、責任者・担当者としてVE活動の実施・推進の任に就くVE専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「VES」資格、VEに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「CVS」資格の認定を行う。

1) 資格認定制度の整備・体系化

米国VE協会から“改定後のCVS資格認定制度運用”に関する情報を収集し、対応が必要な場合は、その方法を検討する。

2) 資格認定試験の実施

第50回 VEL 認定試験（前期）	4月18日～ 7月31日【CBT方式】
第51回 VEL 認定試験（後期）	9月 1日～ 2月28日【 ” 】
第24回 VES 認定試験	12月 4日
第42回 CVS 認定試験	10月16日
第43回 CVS 認定試験	2月 5日

※ 上記のほか、中国などアジア圏を中心にVEL認定試験を実施し、その他海外での同試験実施に向け、必要な情報発信を行う。

3) VEL有資格者の継続教育

VEL有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

4) 「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

VEL（A登録者）、VES、CVS有資格者のVE技術水準の維持・向上を主目的に、VE活動事例やVEに関する研究成果等を収載した「バリュー・エンジニアリング」誌を編集し、第313号（2021年5月号）は電子版と冊子版を、第314号（2021年8月号）からは電子版のみを発行する。

5) 更新登録の実施

VEL、VES、CVS登録者の更新登録（VEL、VESは終身登録を含む）を行う。

3. 講習

ここでは、VE活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、VEに興味がある人やVEL等の有資格者、学生等を対象とした「VE全国大会」、VE関西大会等の「地域VE大会」、及びVE京滋セミナー等の「VEセミナー」を開催する。なお、必要に応じてオンラインで開催することも検討する。

1) 「第54回V E全国大会」の開催

会 期	10月下旬～11月初旬
会 場	未定(対面とオンラインのハイブリッド型での開催を検討中のため)

2) 地域V E大会の開催 (西日本支部 関西地区、中四国・九州地区)

大会名	開催日	開催地
第53回 V E関西大会	2月	(未定)
第64回 西日本V E大会	9月	オンライン開催

3) V Eセミナーの開催 (西日本支部 関西地区)

セミナー名	開催日	開催地
V E阪神セミナー	7月	(未定)
V E京滋セミナー	11月	(未定)

4. 研究開発

ここでは、V Eの適用領域拡大を目的に、学識経験者及び企業人が不便益という新しい視点に着目することで革新的なV E/VM領域の確立を目指す不便益&V E研究会等の「開発研究会」、実務で展開するためにV Eの導入や水平展開を模索している人がV E推進や実践上の課題等について研究を行うV E推進部会等の「機能別部会」、2時間V E手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のV E入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部建設V E研究会等の「専門研究会」を設置する。

1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

- (1) 「不便益&V E研究会」を設置。不便益という新しい視点に着目して、使用機能でも魅力機能でもない第三の機能“不便益機能”を提唱し、不便益による価値創造、革新的なV E/VM領域の確立を目指す。
- (2) 米国V E協会が主催するV E国際大会、及びインドV E協会が主催する INVESTV E大会において(両大会とも Web 会議方式となる予定)、米国など海外諸国の研究動向についての情報を収集する。

2) 各支部での実務的研究の推進

(1) 機能別部会での研究活動

東日本支部に 6 つの機能別部会を設置して V E に関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート（V E 資料）等で広く公表する。

① マネジメント部会	② V E 推進部会	③ マーケティング部会
④ R & D 部会	⑤ ものづくり部会	⑥ 社会インフラ部会

(2) 専門研究会での研究活動

東日本支部及び西日本支部（東海地区・関西地区）に専門研究会を設置して V E に関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート（V E 資料）等で広く公表する。

東日本支部	① V E 初心者のためのスキルアップ研究会
西日本支部（東海地区）	① 中部建設 V E 研究会
西日本支部（関西地区）	① つかいやすい T R I Z 研究会 ② 経営革新を生み出す生き生き V E 研究会 ③ V E ツール研究会 ④ サービス領域での V E 適用方法研究会 ⑤ リーンシックスシグマとのシナジー研究会 ⑥ 原価企画の問題解決研究会

3) プロジェクト形式での研究・検討

(1) 公共事業における V M の研究及び普及促進検討

「公共事業の V M 研究会」において、公共事業の発注者が V E の段階別適用や V E 活用のための人材育成及び組織作りについての研究を行うとともに、公共事業での V E 普及を促進するための施策検討や情報発信等を行う。

(2) Sustainable Value Design の研究

「S V D 研究会」において、“モノとサービスの結合により社会に好循環を生み出す価値設計”の方法論を構築し、持続可能な社会づくりに広く貢献することを目的に、活動を行う。

5. 表彰

ここでは、資源の有効活用による持続可能な社会の実現に向けた V E 活用促進の奨励を目的に、V E 活動で顕著な成果を挙げている企業又は団体の部門又は事業部門等を対象とした「マイルズ賞」、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等における V E 活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、V E 技術水準の向上と V E 活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「V E 実践論文」の審査及び表彰を行う。

1) 「マイルズ賞」の審査・授与

応募のあった企業又はその事業部門、自治体など公共団体について、次の各賞の審査をマイルズ賞規程にもとづいて行い、その結果授賞が決定したところへの授賞式を「第54回V E 全国大会」で行う。

- ① マイルズ賞
- ② マイルズ賞本賞
- ③ マイルズ賞特別賞

2) 協会顕彰の実施

V Eの研究開発や普及促進等で功績を挙げた個人や団体等に、顕彰規程にもとづいて次の各賞を「第54回V E 全国大会」で授与する。

- ① 研究開発功績賞
- ② 普及功労賞
- ③ 協会賞（V E 経営者賞、V E 功労賞、V E 国際功労賞、V E 特別功績賞、V E 学術功績賞、普及功労特別賞、V E 活動優秀賞）

3) V E 実践論文の審査・表彰

V E 実践論文を「第54回V E 全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文の審査を「審査・認定委員会」で行い、その結果入選となったものの表彰を同大会で行う。

※ 学術的研究論文については、一般社団法人日本システムデザイン学会と連携し、査読・発表の機会を別に設ける予定。

6. 情報資料

1) 研究成果の資料化

「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査や、各支部での実務的研究の成果をV E 資料として纏め、公表する。

2) V E テキスト・教材・関連資料等の発行・販売

「第54回V E 全国大会」V E 研究論文集・資料集、V E 普及のための図書等を発行するほか、ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、V E L バッジなどV E 実施や推進のためのアイテムを販売する。

3) V E テキスト・関連資料等の翻訳・発行

- (1) 講座テキストやV E 資料等を英語、中国語等に翻訳し、発行する。
- (2) 特に、中国語版については、上海V E 協会の協力を得て、V E 関連の資料図書も発行する。また、本会が発行しているV E 資料、研究資料等の翻訳も進める。

4) VE関連書籍・資料・教材等の販売

VEの学習及び研究、普及促進に資するため、VE関連専門図書を仕入れて販売する。

5) VE研究論文のネット販売

協会Web Site内に開設したVE論文検索・購入サイト「VE論文navi」で電子化した過去のVE研究論文を販売する。

7. VE活用支援

1) 日本国内における出前講座の実施及び指導講師の派遣

企業・団体等からの要請に応じて出前講座を実施、又は指導講師を派遣し、VEの個別指導、コンサルティング等を行う。

2) 海外でのVE教育支援

- (1) 海外の人材教育支援の関係団体と連携し、現地の人材育成事業におけるVE関連の指導を積極的に支援する。
- (2) 上海VE協会が開催する中国でのVE研修等を支援する。
- (3) その他アジア諸国（ベトナム、マレーシア、フィリピン、タイ等）を中心に現地の提携先を検討し、VEの活用支援事業を海外に展開する。

3) VEワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定・再認定

企業や団体が主催するVEワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がVES認定試験の受験要件であるVE学習経歴を満たせるようにする。また、認定・登録から4年ごとに再認定を行う。

8. 会員相互研鑽

1) 見学会・講演会等の開催

各支部において各種の見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、VEに関する情報交流を行う。

9. 広報活動

1) メールマガジンによる情報発信

メールマガジン「VE情報メール」を毎月1回発行し、VEや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などPR活動にも積極的に利用する。

2) 協会Web Site等による情報発信

協会Web Siteをインターネット上で運営する。情報の定期更新を行い、VEや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、ブログやFacebookと連携させることで、発信力の強化を図る。

3) インフラメンテナンス国民会議への参加

国や自治体、企業、研究機関、NPO等で構成されるインフラメンテナンス国民会議に参加し、情報を収集するとともにVE関連情報の発信を図る。

4) 他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体と相互にイベントを後援し合ったり、PRに協力、参加費の割引を行ったりする等して、VEの普及促進を図る。

5) アジア圏を中心とした海外向け情報発信の拡充

オンライン化により、海外でのVE教育、実践指導、資格認定の可能性も広がったことから、協会Web Siteや情報・資料、動画セミナー等のコンテンツを英訳・中国語訳し、積極的に発信する。

10. 会 議

1) 定時総会の開催

第11期 定時総会	6月18日
-----------	-------

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

2) 理事会の開催

第35回	第36回	第37回
5月19日	9月 1日	3月18日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

3) 「本部企画委員会」の開催

各支部の支部長、各委員会の委員長、事務局長で構成し、年度計画の調整や事業推進における意思疎通を図るための会議を年度内に1回開催する。

以上